

授業の考察①<中学校> 「怒りについて考えよう」

考察の視点

支え合う人間関係を築くための支援の在り方として、ピア・メディエーションに関する活動プログラムの開発をしてきました。この活動プログラムの有効性について、中学校5時間の授業を、以下のⅠ、Ⅱの2点を視点に考察します。

授業の考察の視点

- | |
|------------------|
| Ⅰ 本時のねらいを達成できたか |
| Ⅱ 次時につながる内容であったか |

なお、考察のために抽出した生徒の記述については、ワークシートと振り返りシートの記述を直接引用しています。

Ⅰ 本時のねらいを達成できたかについての考察

○は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

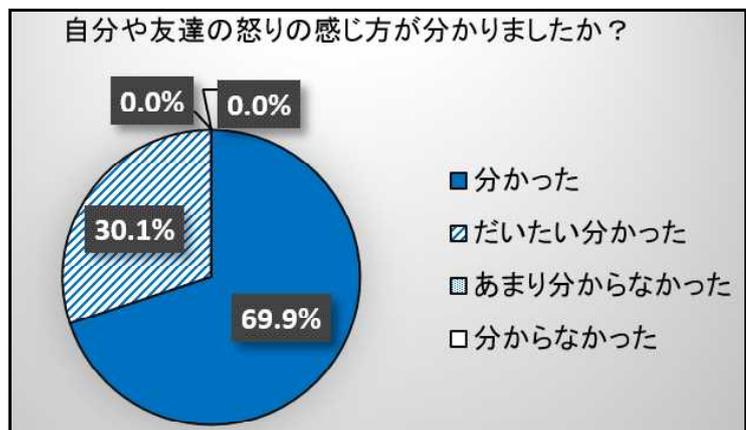
本時のねらいを達成できたかを、次の表1の「本時のねらいを達成することができたかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表1 本時のねらいを達成することができたかを判断する目安

・ 振り返りシートの質問項目「自分や友達の怒りの感じ方が分かりましたか」で、「分かった」「だいたい分かった」の合計が80%以上であること
・ 振り返りシートの質問項目「怒りの仕組みが分かりましたか」で、「分かった」「だいたい分かった」の合計が80%以上であること

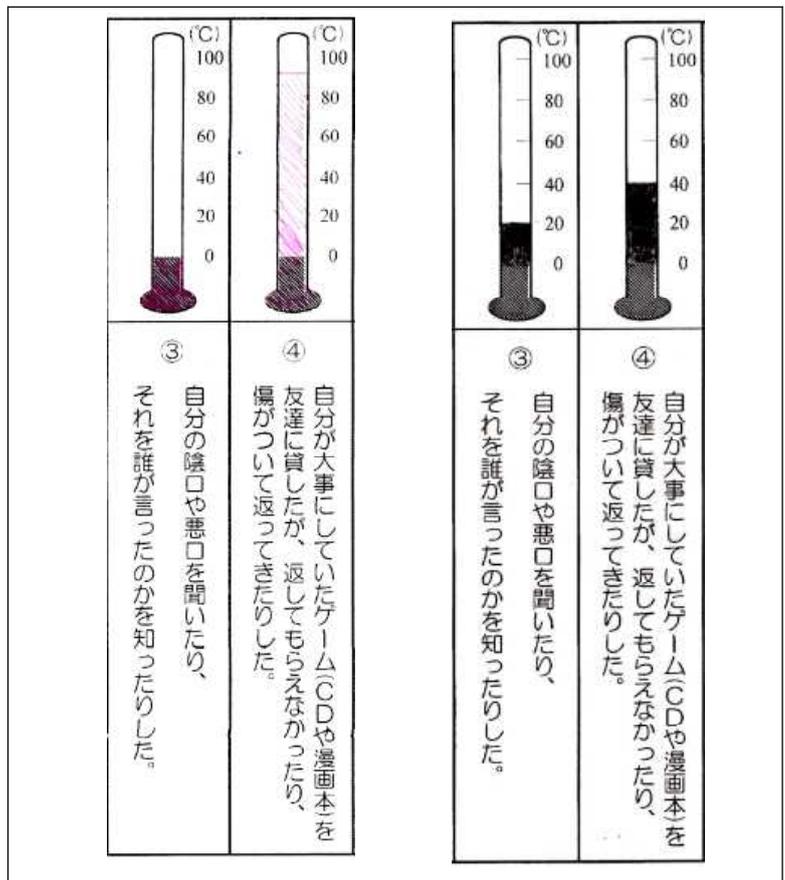
1 怒りの感じ方の理解について

○振り返りシートの「自分や友達の怒りの感じ方が分かりましたか」の質問に対して「分かった」「だいたい分かった」と回答した生徒の合計は100%で、全ての生徒が自分や他の人の怒りの感じ方についての理解を深めることができました（資料1）。



資料1 自分や友達の怒りの感じ方についてのアンケート結果(振り返りシートより)

○自分の怒りの感じ方を温度計を例にして数値化し、それをグループで比較して全体で気づきを交流することにより、自分や他者の怒りについての理解を深めることができました。また、今後の生活の中での他者理解の必要性にも気付くことができました(資料2、3)。



資料2 「怒りの温度計」の比較(ワークシートより)

みんなそれぞれ怒ることの違いがあり分かっていても、少しおどろきました。そんなことで怒るのか、なんでこれほど怒るのかと、意外なことをばかりでした。

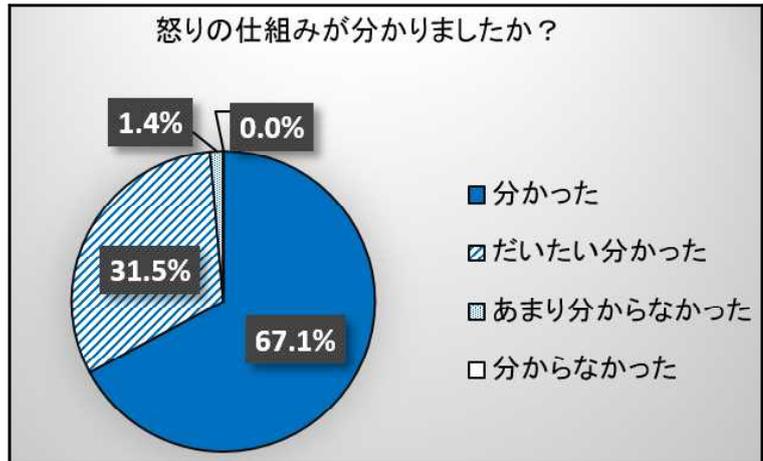
今日、怒りについての学習をして、自分の中に、なんとなくあった感情だったって、今日の学習をするまで、あまり深く考えたことがありませんでした、また、自分と他人の怒りのポイントも少しづつ違っていったので、他人の事も理解して、生活していったらいいです。

班の友達に聞いてみて思ったことが人それぞれ怒りの温度が違っていて結局怒る人もいたり、あまり怒らない人がいるということが分かりました。相手が怒っているように見えなくても、相手が怒っていたり、イライラしてたりすると思うので相手の気持ちを考えてあげることが大切だと思いました。

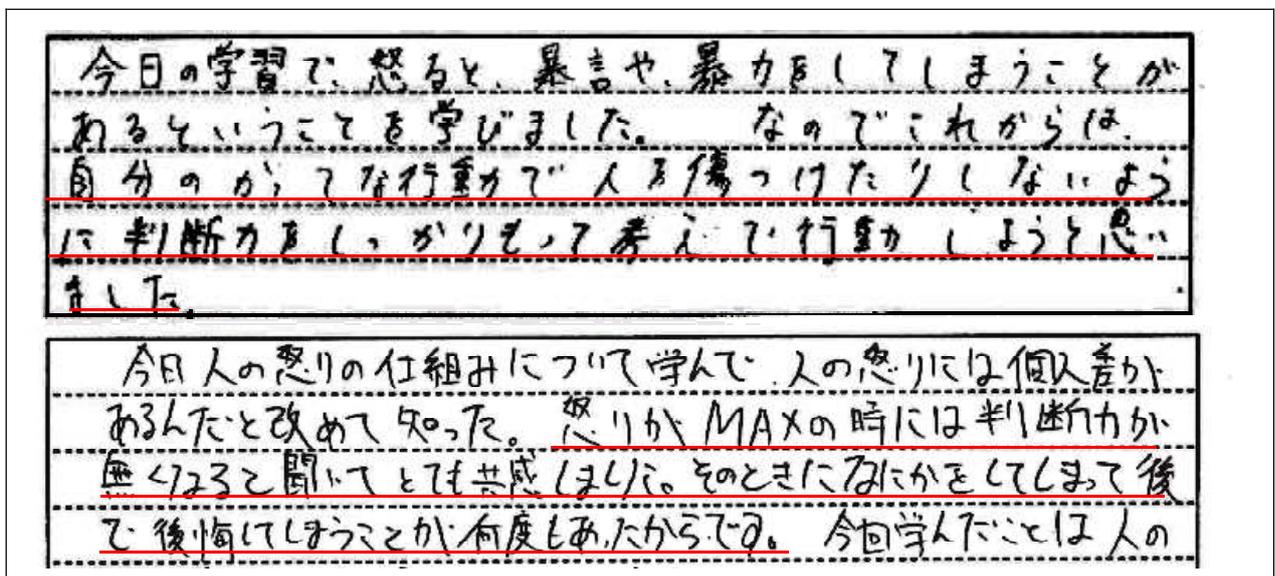
資料3 怒りの温度を友達と比較したときの生徒の感想(ワークシートと振り返りシートより)

2 怒りの仕組みの理解について

○振り返りシートの「怒りの仕組みが分かりましたか」の質問に対して「分かった」「だいたい分かった」と回答した生徒の合計は98.6%で、怒りの仕組みについての理解を深めることができました（資料4）。また、これからの生活に生かしていきたいと考えたり、今までの経験から、自己の怒りを振り返ったりすることができました（資料5）。



資料4 怒りの仕組みについてのアンケート結果
(振り返りシートより)



資料5 怒りの仕組みについての生徒の感想(振り返りシートより)

以上のことから、生徒は怒りの感じ方や怒りの仕組みについての理解を深めており、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であったことが分かりました。

II 次時につながる内容であったかについての考察

○は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

次時につながる内容であったかを、Iの本時のねらいを達成できたかについての考察と併せて、次の表2の「次時につながる内容であったかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表2 次時につながる内容であったかを判断する目安

・振り返りシートの質問項目「学習に進んで参加することができましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「今日の学習の前後で、怒りについての考え方が変わりましたか」で、「変わった」「少し変わった」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「今日学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思えますか」で、「思う」「少し思う」の合計が80%以上であること

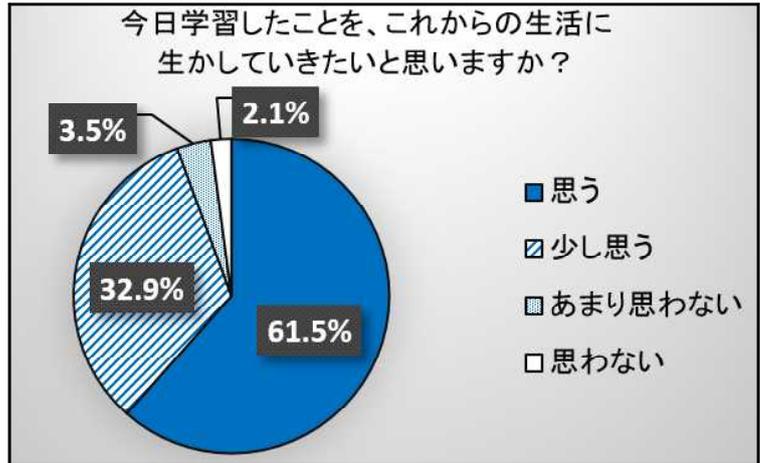
自分が思っていたとおり、怒りは、どんどん怒り、最後には後悔してしまうこと。

爆発した後に後悔するけれど、すべて体験したことがあつたから。

資料9 怒りについての理解や考え方が「あまり変わらなかった」「変わらなかった」と答えた生徒の記述(振り返りシートより)

3 学習内容の今後の活用について

○振り返りシートの「今日学習したことをこれからの生活に生かしていきたいと思えますか」の質問に対して「思う」「少し思う」と回答した生徒の合計は94.4%でした(資料10)。自分の怒りの感じ方やその仕組みを客観的に捉えることにより、自分が怒りを感じたときにどのように対処したらよいかということを考えています。また、怒りが爆発するまでの仕組みについて、今までの経験と照らし合わせて考え、さらに次時の怒りのコントロール法を知りたいという意欲が見られます(資料11)。



資料10 学習内容の今後の活用についてのアンケート結果(振り返りシートより)

僕は普段怒りについて考えたことはあまりありませんでした。しかし今日習ったことを考えてみるといふも怒ったりして物にあたりたりして物をこわしてもなにもかいい物はしないこともわかりました。今日習ったことを普段の学校生活に生かしていきたいと思いました。

人によって、イライラの発情の起こり方が違うんだなと改めて思いました。怒りのしくみが自分に当てはまっている。今回の「怒りのコントロールのしかた」について早く知りたいなと思いました。

資料11 本時の学習全体を通した生徒の感想(振り返りシートより)

以上のことから、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であるとともに、生徒が学習に参加したり学習内容を活用したりする意欲が見られ、次時の学習につながる内容であったことが分かりました。